

発表者 高橋 伸明

テーマ 「学校・家庭・地域の連携による教育について」

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。改めまして高橋伸明と申します。現在、大学院の博士後期課程で学びながら中野区内で働き、中学3年生の担任をしております。また2つの大学でも教壇に立ち、5つの講座を教えております。その意味で現在パラレルキャリアを歩んでおります。そんな私ですが、区立学校様とのご縁がありまして、ちょうど1年前に渋谷区内の中学校8校に研修をさせていただきました。その中でも広尾中学校と代々木中学校には再度お呼びいただきまして、コンピテンシー・ベースを要した異学年でのゼミ型探究学習について、お伝えをさせていただきました。

現在、中野区では、第4次教育ビジョンにのっとりながら教育を進めていることと思います。その中でも私が注目したのは目標Vです。現在、「学校・家庭・地域が連携した教育だ」と実感している保護者の方は80%ですが、私は決してこの数値が高いとは思っておりません。区は目標を90%と掲げ、コミュニティ・スクールの推進をうたっております。こちらが中野区ホームページにある、そのイメージ図ですけれども、主人公である子どもたちの姿がちょっと想像しにくいなというところが本音でございます。私は、将来、この数値を100%にすべく、「みんなの中野教育」を実現したいと考えております。これは、家庭・地域・学校の三者が、子どもを中心にしながら教育を育てていく、そんな、共に育てていく「共育」です。具体的には、将来的に中野区全ての小中学校をコミュニティ・スクールに推進する、あるいはその有無にかかわらず、全ての学校が地域との連携を図っていく、そんな取組をしたいと考えております。いずれにしても、社会全体で子どもを共に育てていく、そんなことを重要にしたいと考えております。

そう考えるようになったのは、お恥ずかしながら、私自身が中野に10年以上住み、中野で子育てをし、中野で働く、そんな中野人だと自負をしているからです。正直申しまして、我が子の誕生をきっかけに、理想の学校を掲げて、教育を日々行ってまいりました。しかし、次第にそれは地域全体へと視野が広がってまいりました。そのために3年前から、中高生や若者、子ども・子育て、環境に関わる3つの委員を務めさせていただいております。その中でも、若者会議は、地域の中高生や若者と共に活動しながら、最終的に区長に政策提言をするものです。これまで中高生に伴走させていただきながら、地域の方にも区報を通じて広く知っていただいたと自負しております。

昨年度はアンバサダーを務めさせていただきました。これまで本当に多くの仲間と真剣に中野区と向き合い、今年は、区のYouTubeにも発信をさせていただいております。つい先日も区長と対談をさせていただいたとこ

ろです。この活動での気づきは、区民の方々の生の声というものを大事にするということです。地域のイベントにも出展させていただきました。これは中野エコフェアという区のイベントですが、実は勤務校の中学生とともに、4年前から出展をさせていただいております。おとしには全国放送にも取り上げられ、昨年は最優秀賞もいただいております。今年は中高生が、先ほど申し上げた若者会議と、地元企業様とコラボさせていただきながら、出展をさせていただきました。そのほかの企業でも多くの地域の方と接しながら、昨年はローカル番組にも取り上げていただき、その実践は現在書籍化もしております。つい先月の11月には、中学生とともに中野ダイバーシティフェスタというものに出展させていただき、地域の方と対話を深めながら、多様性のあり方を考えさせていただきました。

これらの取組は、実は日頃から中学生が自ら企業様にアポイントメントをとって実際に伺い、学校行事などにも積極的に協力をしていただいております。また、中野区の良さを都外にも発信したいという思いから、また中野の中学生の中野のまちの再発見のために、群馬県からも生徒さんをお招きして、合同という形で中野区スタディツアーも企画実施をさせていただきました。

このような取組は地域の方にも学校を開放し、年に2回、子どもたちが自ら共有をしております。チーム学校として、保護者の方をサポーターと呼んでのオンライン保護者会の定期開催や、子どもたちが自ら地域の方へ学びを伝え対話する対話型オンライン授業も定期実施しております。

このように真ん中に子どもを置いて地域の方と共に育む教育は、子どもたちに安全と安心感、そして学びを生むと信じております。その結果、想像以上の成長も実感しております。その成果の一部がこちらです。結果が全てではもちろんございませんが、少なくとも子どもたちが社会から学び、社会に向けて発信する教育、その効果であることは間違いないと確信をしております。そんな「みんなの中野教育」というものを、私自身、教育委員に携わらせていただき、この中野区で実現をしたいと思っております。

本日はご清聴ありがとうございました。

区長 時間がびったりでびっくりしましたけれども、いろいろ活動していただいているということで、ありがとうございます。気になったのは確かに実践なのですが、これを教育現場でどうやって落とし込んでいくかというのが非常に難しいなというのは、我々いつも思っているのですが、それについて、学校にもいらっしゃったみたいなので、仮に教育委員になったとして、各学校でこれを展開するためには、方法論というのは何かお持ちですか。

高 橋 ありがとうございます。1つは、やはり「総合的な学習の時間」がそのキーになると考えております。私も、渋谷区の区立の中学校様と関わらせていただいて、現場の声として、「『総合の時間』をどうすればいいか分からない」という声をたくさんいただいております。私の勤務している学校でも、実は「総合的な学習の時間」に、大学でいうゼミや研究室のような形で、グループに分かれてチーム探究をやっておりますので、そのフィールドワークで中野区を散策したり、あるいは企業様と連携して何かをつくったりということが出来るかなと思いますので、委員になりましたら、まずは「総合的な学習の時間」のテコ入れ、現状と、そして理想に向けて何が出来るかというところから取り組んでいきたいなと思っております。

区 長 だとすると、その事業のコーディネートをやる人が必要ではないですか。それはどうどういうところから資源を持ってこようと思っておりますか。

高 橋 コーディネーターというと、やはりそのコーディネーターがないといけないということになりますので、できれば私が教員研修を積極的にやらせていただいて、まずはなぜ地域とつながる必要があるのかであったり、今のまきに「総合的な学習の時間」を実施するに当たっての困り感を、ぜひ生の声を聞かせていただきながら、教員の方と一緒に、もちろん管理職の先生方も含めて、一緒につくっていききたいなと思っております。

区 長 ちょっと大きい話になってしまうのですが、今、学校教育において、公立の例えば、中学校、小学校での、「みんなの中野の教育」だというときに、今足りないものって端的に言うと、どういうところだと思いますか。

高 橋 無関心というところが大きいのかなと思っております。例えば、子どもたち自身も、せっかく通っている在学、在住の中野というものに、実は学校が終わってしまったら、中野で遊ばずに自分の家にまっすぐ帰ってしまったら、あるいは区外で遊んでしまったりというところもあるので、実は子どもたちにとっては「中野に居場所をつくる」というところも1つ鍵になってくると思います

し、私もフィールドワーク、いろんな区民の方、お声掛けいただくと、やはり子育てとか、教育についてはすごく期待感を持っていただいているので、その子どもたちと区民の方をどうにかしてつなげると、もしかしたらその無関心が変わってくるのではないかなと思っています。